

第 32 回 小豆島町総合教育会議

【日時・場所】

○開催日時 令和 8 年 7 月 30 日（木） 午前 10 時～午前 10 時 32 分

○開催場所 役場本館 3 階 大会議室

○出席者 大江町長、坂東教育長、真砂委員、大山委員、照下委員

○同席者 【町職員】

副町長、古郷総務課長、小野こども教育課長、小野こども教育課課長補佐
黒島こども教育課係長

【教育関係者】

林安田小学校校長、濱元苗羽小学校校長、進藤こどもセンターセンター長、
三好星城・安田・苗羽幼稚園園長、山口内海保育所所長、慈氏せいけんじこ
ども園園長

○傍聴者 9 名

○事務局 2 名

【内 容】

【古郷課長】

失礼いたします。

脊尾委員さんが所用ありまして欠席ということになりましたが、ご案内の時刻参りましたので、ただいまから小豆島町総合教育会議を開催いたします。

議事までの進行を務めます総務課長の古郷でございます。よろしくお願いいたします。

総合教育会議につきましては本日が 32 回目の開催となります。会議は構成員であります町長、教育長、教育委員の 6 名で行うことといたしております。

毎回お願いしている注意事項ですけれども、音響の関係でマイクを 2 本同時に使うと音が割れたりしますので、発言後はマイクを切っていただくようお願いしたいと思います。

それでは小豆島町総合教育会議規則第 4 条第 1 項の規定によりまして、総合教育会議は町長が招集し議長となりますことから、この後の議事進行につきましては町長にお任せをしたいと思います。よろしくお願いいたします。

【大江町長】

皆さんおはようございます。本日は、大変お忙しい中、総合教育会議にご出席いただきありがとうございます。

去る 5 月 29 日に開催しました第 31 回総合教育会議におきまして、大山委員から新たに認定こども園を建設する候補地に対する専門家の意見を伺いたいとのことでした。香川大学の長谷川名誉教授から南海トラフ地震が発生した際の状況等をご教示いただきました。

たのでその内容をご説明させていただき、ご協議いただきたく本日の会を開催させていただきました。本日は、大変お忙しい中、総合教育会議にご出席いただきありがとうございます。

なおこの認定こども園に関する協議は今回で4回目ということで、1回目で認定こども園の建設をご承認いただいて、2回目で統合小学校併設か苗羽小学校跡地かという2つに絞り込ませていただいて、3回目で苗羽小学校跡地を第1候補として検討するという流れで来ております。

できれば、本日の会議で候補地を確定して、次のステップに進みたいというふうに考えておりますので、忌憚のないご意見を賜りますようお願いを申し上げます。

それでは、早速ですが、資料に沿いまして事務局から説明をお願いします。

【黒島係長】

事務局から説明をさせていただきます。

前回の総合教育会議において、宿題となっておりました専門家の意見として、さる6月10日に香川大学の長谷川修一名誉教授にお会いして意見をお伺いしてまいりました。長谷川教授は小豆島の地形や地質に大変お詳しく、昨年度は星城小学校と安田小学校におきまして防災教室も開催していただいております。

今回使用します資料につきましては、県と町のホームページに掲載されているものです。

まず、A4の資料1ページをお願いします。各資料の説明の前に、用語の説明をさせていただきます。

南海トラフ地震ですが「最大クラス」とは、千年に一度あるいはそれよりもっと低い頻度で発生するけれども、発生すれば甚大な被害をもたらす地震のことです。また、「発生頻度の高いもの」とは、一定の頻度（数十年から百数十年に一度程度）で発生し、最大クラスに比べ、震度や津波の高さの規模は小さいものの、大きな被害をもたらす地震のことです。

それでは、A3の地図が載っている資料1ページをご覧ください。

こちらは、最大クラスの南海トラフ地震が発生した際に避難ができなくなる恐れがある浸水の深さ30センチメートルの津波が到達する時間の予測図になります。苗羽小学校の付近につきましては、緑色の部分になり、地震発生から津波到達までに120分から180分かかることが分かります。また、2ページ目が最高津波水位の予測図となっております。内海港における最高津波水位は3.5メートルとなっており、到達時間は発生から2.8時間かかると予測されております。

3ページをご覧ください。

こちらは、最大クラスの南海トラフ地震が発生した際の内海港周辺の津波による浸水想定図です。草壁本町から安田にかけては広範囲にわたって浸水することが見て取れます。また苗羽地区にあっても低い土地ではやはり1メートル程度浸水することが想定されておりますが、苗羽小学校の付近では0.3メートル未満となっていることが分かります。

4 ページをご覧ください。

こちらは、発生頻度の高い地震が発生した際の内海港周辺の津波による浸水想定図です。発生頻度が高い地震では、海岸線に近く、低い土地において浸水するにとどまることがわかります。

次に 5 ページをご覧ください。

液状化危険度予測図になります。少し小さくて見えにくいので、6 ページの拡大したものをご覧ください。

地震の被害につきましては、津波による被害だけではなく液状化による被害も想定されます。液状化が想定されている場所は予測図からみてとれるように、神懸通や安田の古郷のあたりまで相当広範囲な土地が液状化する危険があると予測されておりますが、苗羽小学校の付近は宮山のふもとにあるしっかりした地盤であることから液状化の危険は低いことがわかります。

A4 の資料 2 ページをお願いします。

先ほど説明させていただいたことを踏まえて、長谷川教授からのご意見といたしましては、内海小学校の方が、安全性が高いということは明らかであります。苗羽小学校の跡地については、最大クラスの南海トラフ地震が発生した際の津波による浸水の深さが最高 30 センチ未満であり、その津波の到達までに 2～3 時間程度かかると想定されていることから避難する時間が十分あること、また液状化する危険性が低いことなどから、認定こども園を建設するには不適切な土地ではなく、整備する施設を一部 2 階建てにし、2 階に避難することができるようにすることや、小豆警察署や発酵食品研究所などへ避難できるよう計画を策定しておけばいいのではないかとのご意見でした。

また、そのほかのご意見として、地震による津波の浸水または土地の液状化により、保護者によるお迎えができないことも想定し、地震がおさまったあと、園に戻り、1 日程度保育が可能になるような備えも必要があるとのことでした。

A4 の資料 3 ページをお願いします。

長谷川教授のご意見を踏まえて、幼保の先生方と避難について話し合いを行いました。まず、実際避難ができるのかどうかです。低年齢の子どもの場合は、先生が避難用の「抱っこ紐」を使用して抱っこをするか、数人の子どもを乗せて移動ができる「避難車」に乗せて避難することになります。また、自分で歩行が可能な子どもは、先生が手をつないで避難します。受け入れする人数によるかと思いますが、避難するまでに時間もあるため、小豆警察署付近までの近距離への避難でしたら可能だという判断です。慌てず避難できるよう、現在も実施しておりますが、定期的な避難訓練は必要かと思えます。

また、安全にかつスムーズに避難ができるよう、避難がしやすい施設配置も検討しなければならないと思っております。

事務局からの説明は以上です。

ご協議のほどよろしくお願いいたします。

【大江町長】

ただいま事務局から、長谷川先生のご見解について説明がありました。これについてご意見がありましたら賜りたいと存じますがいかがでしょうか。まず大山先生から。

【大山委員】

失礼します。

まず私の方から1点、長谷川先生の資料をまとめていただいているんですけども、先ほど口頭では説明あったんですけども、教育委員会の際にいただいた資料では、内海小学校の用地は安全性が最も高いということが、長谷川先生の方から言われております。

大規模災害時には内海地区の災害拠点になることが確実で、南北のグラウンドは仮設住宅や物資集約などに利用できるということ、最も安全であるということが、私は大事ではないのかなというふうに思っていたところで、ぜひこの資料の中にそれを入れていただきたかったなというところです。

それを踏まえての検討ではないかなと思うので、安全性っていう部分のところで見たときに、最も安全であるというところ、それと避難が必要であるというところ、そこを比較するべきではないかなと私は思っていて、同じ資料が出てくるのかなと思っておったんですけども、ちょっと違っていたのでちょっとそこが残念かなと思ったところです。

それから、長谷川先生のご意見、大体こういう形で回答が返ってくるかなという予想はしておりました。

ただ、これ第1回目の総合教育会議でもお話させていただいたんですけども、想定外のことが起こるということが、やっぱり今、実際起こっているのも、その想定外をどう考えるかというところを検討していかなければいけないんじゃないかなと私は思っています。

ですから、一昨日の熊本地震にしてもそうですけれども、いつ起こるかわからない、そして何が起こるかわからないというところで、最も安全であるというところに、建設をするということが、やっぱりベストなのではないかなと思っています。

それと、実は私は専門家の意見をお願いしますということと同時に、現場の意見もお願いしました。

で、一応意見をいただいているんですけども、実は私も、幼稚園と保育所の方に実際に行って、所長さん園長さんにお話を伺ってきました。

私自身、前回もお話したんですけども、避難を考えたときに、子どもの避難、特に0歳1歳の避難っていうのは非常に難しいんじゃないかなということで、ここには抱っこ紐でというふうにあるんですけども、抱っこしておんぶして、2人できるのかどうか。

それから、園長さんのお話の中でのパニックを起こす子とか泣き出して動かない、それからパニックで駆け出したりとか、子ども相手なので何が起こるかわからないというところ、そういうことも想定しておかなければいけないんじゃないかなということ。それを考えたときに、多分現場の方からもお話あったと思うんですけども、人数を確保していただきたいとか、避難経路をきちんと整備をしておいていただきたいということ、そういうお話をしたんだということをお聞きしました。

例えば避難経路を整備するにしても、最近テレビで地震の被害の状況ありますけれども、

道路に亀裂が入っている。それから塀が倒れている、電信柱が倒れている、家屋が倒壊している。その中を、子どもたちを連れて本当に冷静に避難ができるかどうかということ、そういうところを考えていかなければいけないのかなと思っています。

ですから、実際に避難するのは現場の先生方です。我々がするんじゃないです。だから、その立場になって考えていったときに、私が園長であれば避難はしたくないです。もし避難しなくていいところに建てることのできるのであれば、そちらの方を選んで欲しいなと思います。そういう形で考えていくべきかなと思いますし、子どもたちの安全を考えたときに、そういうところはどうなのかなあとと思っています。

一応私もシミュレーションで、避難について考えてみたんですけども今、内保と幼稚園で職員が26名。子どもの数が39名、0歳が2人、1歳2歳、2歳ぐらいまでで自分で歩いて避難できない子が大体15人。15人を1人で見るとしたら、職員も15人いるんですけども、半分にしても7、8人はいるということ。

それから、3歳から5歳までで24人おります。それを何人で連れて行くかなんですけども、ちょっとここに写真があるんですけどもこの遠足みたいに絶対無理だと思うんです。

だから、そういうところで何人が必要なのかなと思ったときに、今合わせたぐらいの人数がいなければ、避難はできないのではないですか。

あわせて避難計画を見せてもらったんですけども、中学校の場合だったら何も持たずに、上靴のまま避難するぞって、そういう指示でいけるんですけども、紙おむつであるとか、それから離乳食であるとか、それから子どもの水筒であるとか着替え、そういったものも持ち出さなければいけない。そしたらそれを運ぶ職員も必要になってくる。

そういうことを考えると、かなりの人数が、必要になってくるのじゃないかなと思われる。

それも園長さんにも確認をしたんですけども、そういったことで避難をするっていう、机上で考えるのはすごく簡単にできるんです。だけど、いざするとなると、いろんなことが考えられるし、それは想定外ではなくて想定しておかなければいけないことで、現場が考えるというか、やっぱり行政の側で考えていかなければいけない内容じゃないかなというふうに思っています。

ですから、多分、事務局の方は聞けなかったと思うんですけど、私は園長さんにどっちがいいですか。避難するのと、しなくて済むのとどちらがいいですかって聞いてきたんですけど、もちろん避難しなくて済むほうがいいっていうふうなことで、現場の先生方も安心して保育ができる場所っていうことで、お話を聞いてきました。

私が言ったからそういうふうに答えてくれたところもあるのかもわからないんですけど、その辺りまた確認していただけたらと思うんですけども。

そんな形で、私自身も現場でおった人間として、一番やっぱり地震であるとか災害時の判断っていうのは難しいと思っていますし、一番したくない判断。その判断をしなくていい、避難をしなくていいっていうところに、もし建設できるのであれば、そういう負担を軽減できるのではないかな、保育に専念できるのではないかなと思いますので、そういう形で考えていくのが、私はいいのではないかなと思っています。

【大江町長】

真砂委員いかがですか。

【真砂委員】

今、おっしゃった意見というのも大切ですけど、この資料を見ますと最大クラスで、こういう程度でいけるというような、先生のお話ですのでやはり、そのためにまず避難訓練をしっかりとしないといけないというのは、どこに建ててもそうなんですけれど、特に先ほど大山委員が言ったように、やっぱり定期的な避難訓練、実際に想定したというか、最大クラスのやつを想定した避難訓練を、専門家の方も交えて実際やっているのを見て指導とか支援をいただく。また教育委員会の方からも必要な手立てがあればしていただくというようなことで、苗羽でもいいのではないかなと思っております。

【大江町長】

照下委員いかがですか。

【照下委員】

私は前から言っております通り、苗羽小学校に認定こども園を建設していただきたいなと思っております。長谷川教授のご意見のまとめでは、問題はないということです。

きちんとした避難できる建物を建てていただくと、苗羽小学校周辺の住民の皆様も、そこに避難できるのではないかなと思っております。

それで、そういうきちんとした避難できる建物は、1つぐらいは苗羽地区にも欲しいなと思っております。

ということで、苗羽小学校跡地に認定こども園を建設することにしていただきたいなと思います。

【大江町長】

坂東委員。

【坂東教育長】

私の方は、前回の第3回でも申し上げましたが、こども園の建設場所については大きく2点。1点目が学校施設は安全安心な施設であること。2点目が保護者や地域住民の視点から学校施設等の公共施設は町内にバランスよく配置する。この2つの視点が大事だと思っています。

他にも、詳しく前回申し上げたんですけど、結論としたら前回苗羽小学校跡地がよいという意見を申し上げました。

それを踏まえて、今回安全安心は交通安全とかの問題もあるんですが、今回は地震、津波について、専門家の意見ということで事務局から説明がありました。

結論的には問題がないということですけども、先ほど大山委員からあったように、やっぱり一番大きいのは、避難についての対策ということだと思います。

苗羽小学校に建設するのであれば、当然、先ほど言いました保育士等の人員の確保とか、避難の動線の確保、道路が通れないことも想定して避難経路も1つだけではなくて2つ3つ避難経路も検討する必要があると。

日々の定期的な避難訓練において、課題があれば、それを解決するようなことも、きちんと対応していくということを考えていけば、苗羽小学校跡地が最終的に一番いいのではないかと考えています。

【大江町長】

私も坂東委員とほぼ同様の考え方であります。

一昨日の熊本地震を見ておりまして、この津波とか液状化はある程度想定ができるんですけど、地盤の隆起とか陥没とか、そういったものは全く想定ができないと。

熊本でも実際に避難場所が大きく被災したりとか、そういったことが起こっておりますので、必ずしも統合小学校が安全とも思っていませんし、苗羽小学校跡地がとりわけ危険とも思っていないというところです。

そういった中で、公共施設のバランス等を考えたときに、何もかもが寄ってしまっているのでは。町域の均衡ある発展、こういった面からするとある程度分散型。それに、熊本でもそうなんですけど、被災の大きいところと少ないところとありますから、ひとところに寄っていると逆に、そこが大きな地盤の隆起とか陥没を受けた場合に、より大きな混乱を招くというようなこともございますので、私自身も苗羽小学校跡地がいいんだろうというふうに思っております。

今日、脊尾委員が都合悪くてお見えになってないんですけども、脊尾委員のご意見は、後日、私の方で確認させていただくとして、今回こうして、長谷川先生の方からご意見もいただいておりますし、長谷川先生がおっしゃるには、ここで公共施設できないのであれば、どこでもできませんよというようなご意見でございましたので、できれば今回、苗羽小学校跡地に建設するということを決めたいと。

できるだけ早く認定こども園の整備を行って、現在の特に保育所の非常に環境の厳しいところを解消して、お子さん達を快適な環境で育てたいというふうに思っております。

賛否両論ありますが、どこかで決断しなければならぬと思います。ここは私の決断として、苗羽小学校跡地ということで進めさせていただきたいと思っております。どうでしょうか。

【大山委員】

皆さんがそういうふうにおっしゃられるので、仕方がないという言い方は良くないですけど、ただやっぱり 10 年後 20 年後 30 年後これから先、どんなことが起こるかわからないんですけども、やっぱり最悪の事態を考えておくことは大事なことだと思いますし、30 年後、私はもういないかもわからないですけども、いないからといって責任がないわけではなくて、ここで決めたことはすごく責任が重いと思うので、そういうこともやっぱり私たちが考えておかなければいけないと思いますし、その辺を踏まえての決定にはしていただきたいなということと、もう 1 点、地震から離れるんですけども私はずっと幼小の連携をお話しておったんです。

実はこれも、幼稚園保育所の先生方から聞き取った内容を私なりに解釈してずっとお話をしてきた訳なんですけれども。今現在の小学校の状況であるとか中学校の状況、生徒指導面、学力面も課題がものすごく多いと思っていますし、大変先生方苦勞されています。課題をきちんと解決していくためには、連携であるとか交流であるとかってというのはもの

すごく大事だと思っています。

そういう中で、以前、離れていても連携はできるというお話が出たんですけれども、私は離れたら連携はしづらいと思っています。物理的に離れてしまうと、連携はできにくいと思っています。バスを出したらいいじゃないかっていうふうに思われるかもしれませんが、バス一本出すのにどれだけ教頭先生が時間を割いて、行事調整、時間調整、運転手さんとの調整、給食の配膳であるとか、そういう全部の調整をして、それでやっとバス一本動いているのが実際のところですよ。

今、星城幼稚園が、月に1回は星城小学校に昼休みに交流に歩いて行っている。それから、保育所は、苗羽小学校に歩いて交流に行っている。大体月1回はされているそうです。

園長先生にお聞きすると、やっぱりそれが小学校に上がったときにスムーズに入っている、先生方の顔も知っていますし校長先生の顔もわかるし、そういう状況で非常にいい活動ができているというふうなことでお話を伺っています。

ですから、ぜひそういう活動が円滑にできるように、もし苗羽にするとすれば離れる訳ですから、離れてもそれができるようにしてあげて欲しいなとか、そこはやっぱり行政の力で、学校や園に余計な時間をとらせないような形で円滑に連携が進むように。町としても滑らかな接続っていうことを掲げておる訳ですから、それがきちんとできるような形で、町としてやっぱり進めてもらいたいなと思います。

【大江町長】

はい、ありがとうございます。

今回幼保が1箇所になるということで、そういった調整もしやすいのかなというふうに思いますので、それは行政の方で責任を持って今まで以上にスムーズに接続できるよう努めて参りたいと思いますし、避難につきましても、しっかりと避難訓練を定期的にしながら、いざというときにパニックにならないように、子どもさんがパニックになるとしても、大人がパニックになっては避難ができませんので、大人もパニックにならないようにしっかりと訓練もして、知識も得て、努めて参りたいというふうに思います。

そういったことで、今回で苗羽小学校跡地に建設するということで決定させていただきたいと思います。いかがでしょうか。

【大江町長】

それでは、苗羽小学校跡地を候補地として、建設を進めるということにさせていただきたいと思います。

それでは今後、こういったこども園にするかとか、保育の内容とか、そういった細々したこと、この教育総合会議でご説明しながら、ご了解もいただきながら進めて参りたいというふうに思いますので、どうぞ今後ともよろしくお願いいたします。

本日は大変御苦勞様でございました。

【古郷課長】

ありがとうございます。以上をもちまして、第32回の小豆島町総合教育会議を閉会といたします。お疲れ様でした。